

事業報告書

平成 28 年度版



～平成 28 年度の主な事業報告～

社会福祉法人 未来こどもランド

社会福祉事業

第二種社会福祉事業

保育所 練馬区立石神井町つつじ保育園

保育所 練馬区立光が丘第十保育園

障害児通所支援事業 放課後等デイサービスすまいる・ツリー

障害児通所支援事業 児童発達支援すまいる・キッズ

障害児通所支援事業 放課後等デイサービスすまいる・ステップ

放課後児童健全育成事業 未来こどもランド学童保育

地域子育て支援拠点事業 すまいる石神井

地域子育て支援拠点事業 すまいる高野台

障害児相談支援・特定相談支援事業 未来こどもランドすまいる相談支援室

就労継続支援 B 型 すまいる・フォレスト

コミュニティカフェ 「みんなのカフェ」すまいる・ヴィヴィファイ

◆法人◆

1) 概 略

- 法人名 社会福祉法人未来こどもランド
- 所在地 東京都練馬区谷原5-22-2 MKLビル
- 代表理事 栗原三津子
- 設立認可年月日 平成26年4月8日
- 法人登記年月日 平成26年4月8日

2) 理事、監事、評議員

今年度の理事（6名）、監事（2名）、評議員（13名）は次の通り

理事長 栗原三津子

理事 桂久美子 戸田京子 岩瀬秀明 平山晴一 鈴木真

評議員 栗原三津子 桂久美子 戸田京子 岩瀬秀明 平山晴一 鈴木真 東江福江
黛 明恵 相澤 愛 平田美穂 玉置方里 井口 博 田村亜里砂

監事 田淵順三 少徳健一

3) 理事会の開催状況と主な議案事項

第一回 平成 28 年 5 月 16 日

- ・理事・評議員の互選

第二回 平成 28 年 5 月 16 日

- ・平成 27 年度決算報告 事業報告
- ・H28 年度予算案
- ・法人棒給表の改訂案について
- ・組織図案・中長期計画について
- ・人事について
- ・夏季賞与支給について

第三回 平成 28 年 9 月 28 日

- ・保育計画課からの平成 29 年度 4 月からつつじ保育園の園児増員要望について
- ・すまいる・ステップ 土曜日保育の存続について
- ・定款変更について
- ・新規事業みんなのカフェ・就労継続支援 B 型すまいる・フォレスト進捗報告
- ・新規事業への借り入れについて

第四回 平成 28 年 3 月 9 日

- ・保育従事者への借り上げ社宅助成のスタートについて
- ・東京都子育て応援団の補助金申請について

平成28年度 事業報告書

1 受託事業者名 社会福祉法人未来こどもランド石神井町つつじ保育園

2 受託開始年月日 平成18年4月1日

3 全体概況

当保育園は平成18年よりNPO未来こどもランドの理念のもとに運営されてきた。11年が経過し、利便性の良い当保育園への社会的需要は益々高まっている。同時に保育の質への期待に応えるために今年度は、当保育園の11年間の歩みを体現化した理念を作成した。保育園が一貫して大事にしてきたもの、更に今後の保育の営みの方向性を指し示すものを全職員で議論したことは保育の振り返りをしながらの場となった。また第三者評価受審の年でもあった。利用者アンケートの回収率および満足度の高い結果を得た。第三者機関からの指摘事項については、中長期計画と地域交流の推進が挙げられていたが29年度に解決していきたい。

区として待機児解消が課題となっている中、当園も解消に向けて貢献していくことになり、1歳児定員3名、2歳児定員2名増を目指すこととなった。1歳児クラスは21名の集団となるため、2グループで落ち着いた保育を保證できるように仕切りの工事と2歳児クラスは22名になるため便器の増設工事を行った。0歳児クラスでも27年度からの懸案であった見通せる安全な保育室にするための工事を併行し、3か所の工事が3月中に終了した。また定員増になったことで棚などを購入し、新年度にスムーズな保育が実施できるように備えた。

保育士不足の波は当園でも過去3年に渡って影響を受けてきたが、今年度は非常勤職員が正規職員になり他4名の正規職員を確保し、法人の願いでもあった週40時間労働制の実現を叶えることが出来た。小さい子供を持つ職員も辞めずに長く働き続けることが出来る職場づくりの第一歩となった。全職員対象に年に2回実施している育成面談では、職員から明るい感想が寄せられ、代休の取得が組織のモチベーションを支えていることが実感できた。今年度は法人の理念を保育園の理念に繋げ、定員増を実現し、働きやすい職場にしたことが地域社会に貢献できる保育園の基盤を固めることとなった。

4 保護者会等実施状況

	保護者会	保育参観(参加)	個人面談	その他 ()
0歳	4/1・5/9 3/4	毎週水曜日	随時	水曜日以外も実施
1歳	4/18 3/4	毎週水曜日	随時	〃
2歳	4/19	毎週水曜日	随時	〃

	3/4			
3 歳	4 /20 3 /2	毎週水曜日	随時	〃
4 歳	4 /21 3 /7	毎週水曜日	随時	〃
5 歳	4 /28 1 /20	毎週水曜日	随時	〃

5 運営委員会等開催実績

	開催日	時間	会場
第1回	10/28	18:30～	石神井町つつじ保育園ホール

6 障害児保育

5歳児A・4歳児B・3歳児Cの3名の統合保育がスタートした。Bは、近隣の幼稚園から新入園児として入所した。幼稚園から保育指導要録が送られてきた。幼保の連携として初めてのことであった。自分中心の行動から周りに意識が少しずつ行くようになり集団の中での行動がだんだんに身についてきた。Aは睡眠障害もあり生活リズムがつかず、不機嫌な状態で登園した。自我を通すが要求を言葉で表わすことが出来ず、感情をぶつける行動が、周りの人に理解できないことが多かった。母親は家庭や登降園時にAへの制限が出来ず母親が疲弊し子育てが危うい時は子育て支援センターに繋がれた。また担任がAへの対応に迷った時は、随時、巡回指導でアドバイスを得た。9月に家を飛び出し、マンションの2階から落下した事故では、個別ネットワーク会議を持ち、親子を支援する態勢を整えた。薬を飲むようになってからは、午睡の出来る日もあった。言葉も出始め、卒園の頃には自分の名前を言えるようになった。卒園後は特別支援学校に決定。Cは言葉や行動面は活発であり知的な伸びが見られた。友だちとの関わりについて課題を持ちながら日々笑顔で楽しく過ごせた。

7 地域との連携

(1) 地域との交流事業実施状況（子育て支援、ふれあい交流、家庭福祉員児童への給食サービスなど）

月	事業名	事業内容	参加者数
4月	つつじっこクラブ	交地域流事業・ふれあい給食	16
5月	つつじっこクラブ	交地域流事業・ふれあい給食	56
6月	つつじっこクラブ	地域交流事業・ふれあい給食	62
7月	つつじっこクラブ	地域交流事業・ふれあい給食	77
8月	つつじっこクラブ	地域交流事業・ふれあい給食	63

9月	つつじっこクラブ	地域交流事業・ふれあい給食	12
10月	つつじっこクラブ	地域交流事業・ふれあい給食	210
11月	つつじっこクラブ	地域交流事業・ふれあい給食	263
12月	つつじっこクラブ	地域交流事業・ふれあい給食	57
1月	つつじっこクラブ	地域交流事業・ふれあい給食	183
2月	つつじっこクラブ	地域交流事業・ふれあい給食	160
3月			

8 給食（アレルギー対応や安全、衛生管理について）

入園前の情報に基づき、面接時に栄養士や看護師が保護者より詳しく聞き、医師の診断によるアレルギー除去指示書をもらい、非常勤職員を含む全職員で園児のアレルギーの状況を共有した。看護師より、新人職員へアレルギー症状の対応など全般についての研修を実施した。第三者委員からの指摘により、看護師を中心にすぐに全職員にヒヤリハットを記入する意義について話し、ヒヤリハット用紙を各職員に1枚ずつ配布し、事故を未然に防ぐように取り組みを始めた。月を追うごとに記入することが身に付き、看護師に提出される用紙が増えた。ヒヤリハットで出された件は、全体会議で原因と対策を園全体で共有した。アレルギー用献立を提供する際のヒヤリハットは特に、非常勤職員の任せても正規職員が目や意識を持つことの注意喚起をした。家庭と協力した徹底した食事管理で、年齢があがるにつれて食べられるようになった園児が増えている。

衛生管理については衛生管理表に基づき、日々チェックを行い、安全で安心な給食づくりを徹底した。また配膳する保育者や非常勤職員も身支度をマニュアル通りに徹底し、配膳時も衛生面に気を付けていくようにした。食事中の園児の嘔吐物がかかった食器の始末については、マニュアルに従って消毒をした。また床などの嘔吐物の始末についても、流行する前に全職員で処理の仕方を復習することで、慌てずに素早く対応できた。非常勤職員の入れ替わりの際には漏れることなく看護師が指導にあたった。

9 園児の健康管理

(1) 実施状況

	実施の有無		実施の有無
健康診断（春・秋）	有	歯科保健指導 （講演会、歯磨き指導等）	有
0歳児回診（月1回以上）	有		
歯科健康診断（春・秋）	有		
ぎょう虫卵検査（春・秋）	有		

10 感染症等への対応

新入職員には看護婦より研修を行い、実際の嘔吐物や下痢などの処理のしかたを実践できるように個別指導をした。また感染症が流行る前に全体会議で、実際に嘔吐物の処

理方法を実演し、職員によく理解できるように研修を実施した。さらに感染症の情報の収集を行い、職員・保護者にもタイムリーに情報提供を行ってきた。園児には手洗いやうがいなどの健康指導を看護師が行い、園児にも予防についてわかりやすく伝えた。職員トイレには通年、プッシュ式の液体洗剤を置いた。また玄関には通年、手指の消毒液を置き、保護者に利用して頂いた。シラミが二年続きで流行り、スミスリンなど区のマニュアルに従って保護者に対応の協力をして頂いた。園の対応として園児にバンダナで髪を覆い、室内はカーペットは敷かず、毎日清掃をし、消毒を行った。看護師が一人ずつ卵を取り除く作業を行って一段落をした。髪の毛を切らない方針のご家庭からも毎年、シラミに感染すると自発的に切るなどの協力が得られ、早めに終息した。インフルエンザに罹患する園児が12月から出始め、1月下旬から2月がピークで4月初旬になっても罹る園児がいた。感染拡大を防ぐためにクラス別の活動をするなどの初動対応が課題となった。次年度に活かしていきたい。

11 個人情報

就業規則に個人情報保護法に基づく法令の順守を定め、採用時に研修をした。また年度初めの職員会議では、個人情報の管理の徹底を伝え、基本的に事務所からの持ち出しを禁止していることを伝えた。書庫から児童票・カメラを持ち出す際には、使用者の氏名と借入日時と返却日時を書くようにした。返却日時の無記入についてはその日のうちに所在を確認し記入を徹底した。カメラは必ず事務所に忘れずに返却することは、昨年より徹底してきたので、揃うようになった。情報セキュリティーについては、全体会議で園長から問題形式の研修をグループの職員で考えて、全員で答え合わせをするなど自ら考え、問題意識を持つようにした。保護者には、個人情報の利用目的について入園説明会や保護者会で説明し同意書を全世帯から得た。保護者による卒園アルバム制作のため写真のデータを今まで事故はなかったもののSDカードに入力して渡すことの危険性を話し、今年度をもってできないことを話し了解を得た。

各規定の設定（有りの場合は○、無い場合は×）

情報公開に関する規定 （仕様書 15 に定めた内容として）	○
情報セキュリティーポリシーの規定 （情報システムを用いる場合に、仕様書 14 の 9 に定めた内容として）	○

1 受託事業者名 光が丘第十保育園

2 2 受託開始年月日 平成 25 年 4 月 1 日

3 全体概況

保育士との信頼関係を基盤に、一人ひとりの子どもが主体的な活動ができるように年度の初めに保育課程に基づき、年間保育指導計画を作成し、保育が適切に展開できるように全体で確認した。また、月ごとに指導計画を立て、子どもの状況や季節の変化に合わせた保育を心掛けた。異年齢の編成による保育を実践する中で、自分より年下の子どもへのいたわりや思いやりの気持ちを育み、年上の子どもへの憧れを持てるよう、子ども同士の育ちあいを大切にした。

安全管理については、災害に備えて防災訓練、避難訓練を定期的に行い、職員、子どもの意識を高めてきた。また、各クラスではヒヤリハットの記録を行い、全職員で検証する時間を持ち、大きな事故につながらないように記録の見直しも行った。午睡時には SIDS の取り組みとして、0 歳児はうつ伏せ寝にしないことを徹底し、睡眠チェックを 0 歳児は 5 分おき、1, 2 歳児は 10 分おき、3, 4, 5 歳児は 15 分おきに実施し、常に体の状態を観察し、異常の早期発見に努めた。

保育環境についてはとくに保育園生活が長時間になってきていることから、0, 1 歳児クラスは家庭的でゆったりとできるような空間をつくり、温かい安らぎのある雰囲気大切にしながら、子どもの発達に合わせた遊具やコーナーを設定し、安心して過ごせるようにした。幼児は保育士との信頼関係を基盤に、主体的に活動できるようにする中で自立心を育み、友だちと共同して遊ぶ中で、人と関わる力や思いやる心を大切に育んだ。小学校への接続では、年長児が小学校への訪問や行事に参加し、職員同士が情報を共有する中で互いに理解を深めることができた。

職員の資質向上では、個別研修、法人研修、全体研修の他に園内で交換保育を実践し、自分の保育の振り返りや気づきに繋がるようにした。園外の研修と園内の研修を実践したことで、保育者の質、保育内容の向上につなげることができた。

4 職員構成 様式 1 のとおり

5 年間行事実施状況 様式 2 のとおり

6 保護者との連携

(1) 各たよりの発行状況

名称	発行回数
----	------

園だより	毎月、随時 年 12 回 ()
保健だより	毎月、随時 年 12 回 ()
えいようだより	毎月、随時 年 12 回 ()
クラスだより	毎月、随時 年 12 回 ()
行事の取り組み	毎月、随時 年 回 ()
	毎月、随時 年 回 ()

(2) 保護者会等実施状況

	保護者会	保育参観(参加)	個人面談	その他 ()
0歳	28. 5.9 29. 3.6	12名	12名	
1歳	28. 5.10 29. 3.7	15名	18名	
2歳	28. 4.25 29. 3.3	20名	21名	
3歳	28. 4.26 29. 3.2	14名	15名	
4歳	28. 4.27 29. 3.1	17名	18名	
5歳	28. 4.22 29. 1.27	21名	23名	

7 運営委員会等開催実績

	開催日	時間	会場
第1回	28. 7.22	18:30~	保育園ホール
第2回	29. 3.10	18:30~	同上

8 障害児保育

3名の認定障害児の受け入れを行い、統合保育を実践した。一人ひとりの障害の状況や

発達に合わせて保護者との共育を目指した。専門機関での話し合いに、保護者の同意を受けて参加する中で、関わり方などを学ぶことができた。2歳児の障害児は運動発達や知的発達が6～9か月という状況で、保育士の全面介助を必要とするが、母親の仕事の関係で専門機関での訓練が定期的に通えず、園でさまざまな方法を考えながら本児の支援を行ってきた。現在はスプーンを持つことができるようになったが、取り込みは自力でできない。区の巡回指導で、専門的なアドバイスを受ける中で保育の取り組みの方向性を確認することができてよかった。

また、気になる子どもが各クラスにおり、子どもの行動特徴や発達を丁寧に観察し、必要に応じて、保護者との面談や保健所などへの相談につなげた。

9 職員研修 様式3のとおり

11 特別保育 様式4のとおり

12 地域との連携

(1) 地域との交流事業実施状況（子育て支援、ふれあい交流、家庭福祉員児童への給食サービスなど）

月	事業名	事業内容	参加者数
4月			
5月	地域交流	起震車体験（雨天のため中止）	0名
6月	地域交流	リズムでいっしょにあそびましょう	10名
7月	地域交流	七夕きらきらコンサート	12名
8月			
9月	地域交流	リズムでいっしょにあそびましょう	32名
10月	地域交流	運動会に参加して楽しみましょう	20名
11月	地域交流	園庭でいっしょにあそびましょう	7名
12月	地域交流	年末お楽しみ会	6名
1月	地域交流	新年お楽しみ会	2名
2月	地域交流	節分（豆まきをしよう）	12名
3月			

*参加者にアンケートをとったところ、家では経験できない行事への参加の希望が多いことから、リズムや伝統行事への参加を計画した。

12 給食（アレルギー対応や安全、衛生管理について）

アレルギー児7名については指示書に基づき、アレルギーの除去食を実施した。トレイ

にのせてアレルギー食を明確にし、カウンターから出すときには間違いの無いように声を掛け合って確認を行った。また、献立会議で除去食の確認を全体で行うことで、誤食が起きないように徹底した。家庭との十分な連携のもと、代替食を工夫し、保護者の安心感にも繋がるように配慮した。衛生管理については、衛生管理表に基づき、日々チェックを行い、安全で安心な給食づくりを目指した。

13 園児の健康管理

(1) 実施状況について

	実施の有無		実施の有無
健康診断（春・秋）	有	歯科保健指導 （講演会、歯磨き指導等）	有
0歳児回診（月1回以上）	有		
歯科健康診断（春・秋）	有		
ぎょう虫卵検査（春・秋）	有		

(2) 感染症等への対応について

区の感染症マニュアルを全職員で確認し、感染予防に努めた。また、感染症の情報収集を行い、保護者にもタイムリーに情報提供を行い、感染の拡大を防いだ。全職員がインフルエンザの予防接種を受け、園児には手洗いやうがいなどの健康指導を年齢に応じて行い、予防に努めた。

14 個人情報（個人情報の適正な取り扱いや研修の実施などについてご記入願います）

就業規則で個人情報保護法に基づく法令の遵守が定められており、採用時には研修を実施している。また、職員会議では個人情報の管理について、その都度事例を検討し、秘密保持、書類の管理などの徹底に努めた。保護者には、入園説明会や保護者会で説明し、個人情報の利用目的についての承諾書を提出してもらうようにしている。

各規定の設定（有りの場合は○、無い場合は×）

情報公開に関する規定 （仕様書 15 に定めた内容として）	○
情報セキュリティポリシーの規定 （情報システムを用いる場合に、仕様書 14 の 9 に定めた内容として）	○

1 事業者名 社会福祉法人未来こどもランド すまいる・ベリー保育園

2 事業開始年月日 平成27年4月1日

3 全体概況

当保育園は平成27年より社会福祉法人未来こどもランドの理念のもと小規模保育事業として運営され2年が経過した。

28年度は、定員19名のところ、最終的に児童数17名（0歳児4名、1歳児8名、2歳児は5名）となった。4月当初は2歳児への進級5名。新入園児は13名であった（途中で何人も転園、入園など入れ替わりがあった。）が、2歳児は最終的に3名の欠員になった為、途中で0歳児を1名増員し、3名から4名に定員を変更した。

28年度の10月からは、朝夕の延長料金の徴収を無くしたことで、今まで9時から17時までの時間帯で保育を利用する方が多かったが、朝夕の時間帯も保育を利用する方が増えてきたので、それに伴い朝夕の職員体制を整えた。

待機児童の解消、そして延長料金が無くなり利用しやすくなったことや利便性の高さ等もあって、当園の社会的需要は高まっている。同時に保育の質を高める為に、28年度は、常勤職員、非常勤職員共に園内研修を実施し、さらに園外研修の参加も進めてきた。また、常勤職員が研修で学んできたことを非常勤職員に伝える時間を設けたことで、非常勤職員の保育に対する意識に変化が見られた。更に、保育士資格の無い非常勤職員3名に対し、「子育て支援員」の研修を受講してもらったことで保育に対する意識が益々高まり、子どもへの声かけや接し方も変わってきた。園内・園外研修の成果が感じられ、初年度に比べると、保育の質の向上を目指す、第一歩となった。

行事に関しては、27年度（1年目）に卒園式を実施したが、卒園児以外で転園してしまう児童が非常に多かったことと、28年度（2年目）は卒園児の人数が少なかったこともあり、28年度の卒園式はお別れ会に変更した。お別れ会は、保護者の参加も無くし、全園児と保育者のみで3月末に行い、卒園児と転園児を送り出した。

その他の行事は、ほぼ計画通り実施できたが、大きくなったね会の後に行う予定だった保護者会は、時間が押してしまい実施できなかつたので、次年度は時間の見通しをもって行っていきたい。

また、法人内連携として、石神井町つつじ保育園の看護師には、ほけんだよりや園児の健康面や怪我等の相談。管理栄養士には栄養便り、献立表などの提供や、離乳食の相談などをすることにより、より良い保育につながっている。

地域交流に関しては、七夕会以外の年末お楽しみ会や新年お楽しみ会にも地域の方をお誘いする予定だったが、その時期、保育園で下痢、嘔吐、インフルエンザ等の罹患が数名見られた為、地域の方をお誘いするのを控えた。

巡回指導では、たくさんのご指導をいただき、一つひとつ改善してきた。保育環境が良い、子どもに寄り添った丁寧な保育をしているなどお褒めの言葉も頂けた。

職員の労働環境面では代休取得が十分に実施できなかつたので、次年度は週40時

間労働制に応じた体制が組めるよう、そして、職員が働きやすい職場になるよう努力していきたい。

4 保護者会等実施状況

- ・保護者会 5月28日(土) 0歳児、1歳児、2歳児 クラス別で実施
- ・個人面談 8月中に保護者のお迎えの時間帯やその他保護者の都合に合わせて実施した。

5 地域との連携

- ・地域交流・地域子育て支援

項目	実施内容	実施回数 参加者数
地域交流	七夕会(地域の方にも参加してもらう)	3名
地域交流	クッキー作り (近隣の方へ日頃の感謝を込めてクッキーをお届けする)	6軒 (2歳児のみ)
地域交流	上石神井第二保育園へスケルトン車を見に行く	5名 (2歳児のみ)
地域子育て支援	保育所体験	5回
地域子育て支援	出産を迎える親の体験学習	6回
地域子育て支援	小中学生の育児体験受け入れ	10回

6 給食(アレルギー対応や安全、衛生管理について)

1歳児クラスで、アレルギー除去食(卵、ピーナッツ)の児童が1名いた。入園前の情報に基づき、園長が保護者から聞きとりをして、医師の診断によるアレルギー除去食指示書を受取り、非常勤職員を含む全職員で対象児のアレルギー状況を共有した。また、すまいる・ベリー保育園のマニュアルを作成し、誤食を起こさないよう全職員に周知徹底した。

衛生管理については、衛生管理表に基づき、日々チェックを行い、安全で安心な給食づくりを徹底した。また配膳する保育者や非常勤職員も身支度をマニュアル通りに徹底し、配膳時も衛生面に気を付けていくようにした。食事中の園児の嘔吐物がかかった食器の始末については、マニュアルに従って消毒をした。また床などの嘔吐物の始末についても、研修で全職員に処理の仕方を伝えておいたので、慌てず対応できた。

7 園児の健康管理

	実施の有無
健康診断（春・秋）	有
身体測定（月1回）	有

8 感染症等への対応

4月1日に行い、実際の嘔吐物や下痢などの処理のしかたを実践できるように、実際に嘔吐物の処理方法を実演し、職員によく理解できるよう研修を実施した。また、練馬区からの感染症情報を、職員・保護者にも伝えてきた。園児には、日々の生活の中で手洗いやうがいなどの大切さを分かりやすく伝えてきた。職員トイレには通年、プッシュ式の液体洗剤を置いた。また、全員プッシュ式で除菌作用のある手洗い石鹸を使用し、各手洗い場と玄関には通年、手指の消毒液を置き、保護者にも利用して頂いた。

12月に下痢嘔吐症状が数名見られ、インフルエンザに罹患する園児も12月下旬頃から出始めた。しかし、お正月休みが入ったこともあり、1月の上旬にはインフルエンザも落ち着き、拡大することはなかった。園では、感染拡大を防ぐ為に、丁寧な手洗いと玩具、棚、床などの消毒を徹底した。また、保護者や兄弟など家族が感染症に罹患してしまったり、体調が完全に回復しない状態で登園してしまう子どもがいた為、「感染症予防と感染症拡大防止の為のお願い」の手紙を保護者に配布し、協力と理解を求めた。

9 個人情報

就業規則に個人情報保護法に基づく法令の順守を定め、採用時に書面で確認している。児童票など保育書類等・カメラは鍵のかかるところに保管すようにした。（カメラは必ず事務所に忘れずに返却することを徹底した）保護者には、個人情報の利用目的について入園説明会や保護者会で説明し同意書を全世帯から得た。保護者に対しては、ネットでの写真を流出するなど、個人情報を公開することのないようお願いした。

障害児通所事業

平成 28 年度 放課後等デイサービス すまいる・ステップ事業報告

利用定員 1日10名

利用契約者数 27名

待機登録者数 3名

職員人数 9名

児童発達支援管理責任者（保育士）1名 保育士4名
指導員 2名 送迎 1名

利用実績表（実際に利用した人数）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	半期合計
実績数	252名	219名	225名	229名	205名	210名	1340名
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
実績数	219名	229名	218名	210名	205名	221名	2642名

*個人面談 年2回実施（保護者からの支援ニーズなどご家庭や学校の様子を伺い個別支援計画に反映させるためのもの）

*保護者会 年1回実施（保護者に日頃の活動の様子を知らせたり、意見交換を行うためのもの）

日々の活動

個々の発達段階と障がい特性を踏まえ、2グループに分かれて保育をしている。週ごとに活動（買い物練習・工作・おやつ作り・お楽しみ会・避難訓練など）を設定し、全体としての活動のねらいと一人ひとりの発達に応じた目標達成をめざし、取り組んでいる。

今後の課題

さらなる施設の安定（事業の質および運営面）をめざしたい。

利用児の学年が上がることで下校時間が遅くなったり、他校と時間がかさなったりし、送迎車3台使っても、回らない事態が増えてきている。学年、学校、自宅の距離の調整を行うことで送迎時間の短縮や一定の活動時間を保障していくことにもつなげていくようにしたい。

平成 28 年度 放課後等デイサービス すまいる・ツリー事業報告

利用定員 1日10名

利用契約者数 32名

待機登録者数 6名

職員人数 9名

児童発達支援管理責任者（保育士）1名 保育士3名 指導員4名
事務・送迎 1名

利用実績表（実際に利用した人数）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	半期合計
実績数	230名	222名	242名	230名	220名	233名	1,231名
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
実績数	226名	222名	210名	213名	227名	245名	2,720名

日々の活動

課題計画を職員全員で話し合うことで充実した内容となった。

今年度より、音楽活動も取り入れた。

（買い物練習・工作・おやつ作り（調理活動）・お楽しみ会・避難訓練・音楽など）

今後の課題

保育の充実・安定（事業の質および運営面）を目指す為に利用者の曜日固定によるグループ化を保護者の方々に協力を呼びかけ実現したい。

平成 28 年度 児童発達支援事業 すまいる・キッズ 事業報告

利用定員 1 日 10 名

利用契約者数 平成 29 年 3 月現在 27 名

職員人数 5 名 管理者及び児童発達支援管理責任者（保育士）1 名
保育士 2 名・指導員 2 名

利用実績表

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	半期合計
実績数	131 名	136 名	164 名	153 名	104 名	145 名	833 名
月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年間合計
実績数	141 名	147 名	147 名	127 名	139 名	166 名	1700 名

*利用実績数は、月の祝日、開所日数、体調（利用児、付き添う保護者、兄弟）、行事（幼稚園、保育園）、天候などにより変動する。

新たな取り組み（3 点）

- ①幼稚園、保育園に在籍しながら利用する子どもが増えたため、火曜日から金曜日の 16:00～16:30 の個別枠（8 枠）を増やした。主に保育園在籍中の子どもが、昼寝後（おやつ後）早退して通所している。
- ②子どもの発達によっては、個別療育の内容として運動療育も取り入れることとした。
- ③午前、午後の小集団のグループ（保護者付き添い）の定員を 5 組から 4 組に減らした。1 時間半の活動の中に個別療育を含んでいるため、昨年度は、一人約 20 分の個別を 5 名行うことで小集団での活動時間が十分に確保できないことと、また、遊戯室への人の出入りが多くなることが気になっていた。それぞれの利用児に合わせた個別療育はキッズの特色であり、保護者が他の事業所ではなく、すまいる・キッズを希望する理由の一つにもなっているため、定員を一組減らすことで小集団の活動と個別療育のどちらも充実するように考えた。

今後の課題

児童発達支援事業所の増加や新設に伴い、事業所を 2、3 か所併用する子どもや短期間で他事業所に移る子どもが増えてきている。

すまいる・キッズで大切にしたいことは丁寧に伝えつつ、療育内容を充実させ、安定した長期利用（卒所まで）につながるようにしていきたい。

9 月には開設から 5 年目を迎え、毎年度末には卒所児を見送るようになってきた。就学に向けての保護者の不安は大きく保護者支援の大切さを改めて感じている。就園児保護者対象の交流会を定着させ、就学に向けての情報提供やすまいる・ステップへの継続も働きかけていきたい。

平成28年度 就労継続支援B型 すまいる・フォレスト事業報告書

事業目的 利用者が日々笑顔で毎日をご過ごせるように、働く生活を通じて、自立に必要な「生活力・仕事力・余暇力」の知識や技術を育成し、「社会力」を身に付ける事で「自己実現」を目指す。また、集団生活を通じてコミュニケーション能力の向上を図ると共にルールやマナーを身に付ける事で「協調性」を養っていく。

利用定員 1日20名

利用契約者数 2名 (H29年3月現在)

待機登録者数 0名

職員人数 4名

- ・管理者（施設長）1名 ・サービス管理責任者（保育士）1名
- ・目標工賃達成指導員（作業療法士）1名 ・支援員（非常勤職員）1名

利用実績表 (平成28年度実際に利用した延べ人数)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	半期合計
実績数	/	/	/	/	/	/	/
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
実績数	0名	0名	0名	0名	20名	39名	59名

※平成28年10月に「準備室」を立ち上げ11月に開所する。練馬区内の福祉事務所（4か所）、特別支援学校等に募集のお願いやポスター、パンフレット配布等を行い、見学、実習等を経て2月1名、3月に1名と契約を行う。

作業・活動

*毎日の取り組み

- ・受注作業（クロネコヤマト DM 便配達・風船封入作業・2点封入作業）

*インシップ封入は毎月期間限定作業

- ・生産作業（フェルト製品・壁紙製品・ペーパークラフト製品等）
- ・余暇活動（制作・調理・道徳（SSTも含む）・DVD鑑賞等）

*月毎の取り組み

- ・身体測定（体重、血圧）、避難訓練

*3カ月毎の取り組み

- ・作業評価表の見直し、利用者面談、個別カンファレンス実施

*年間行事

- ・1日外出（4月）、家族会（5月）、防災宿泊（11月）、新年会（1月）

今後の課題

- *利用者確保…練馬特別支援学校を始め、各都内の支援学校からの見学、実習を積極的に受け入れる事で利用者確保に繋げる。また、各福祉事務所等からの受け付けも見学、実習までは受け入れながら施設との適性を見て行く。
- *受注作業… 現在行っている3つの作業を主にレインボーワークからの共同受注の取り組みも作業によっては受けていく。
利用者の人数、スキルに応じてクロネコDM便は範囲拡充もしくは、作業の日数を検討していく必要がある。
また、天候の変化による利用者の身体的負担にも配慮していく。
- *生産作業… 現在の利用者人数では、生産活動を行える時間も少ない為、予定、検討してきた製品作りは実施できていない。
今年度は、限られた人数、時間内で出来る製品を優先順位順に制作していく。
また販路はすまいる vivify、法人内の保育園、学童等で期間移動展示販売を実施予定
- *余暇活動… 活動内容が家庭生活や今後の仕事に繋がる内容を主に実施しているが様々な事を実施しながら確立していく。
- *年間行事… 時期尚早との事で見送ったが、一泊旅行の実施をできるようにしていきたい。
- まとめ… まだ手探りの段階ではあるが、各項目等で日常の生活の積み重ねと、日々、月、年間で反省・改善を繰り返す事で充実した施設内容を目指していく。
利用者が増えてきたことを踏まえながら今後の計画をたてていきたい

放課後児童健全育成事業

平成 28 年度 未来こどもランド学童保育 事業報告

○H28年度 定期利用児童 19名
一時預かり枠登録者（定期スポット、単発スポットを含めて） 28名

対象児童 小学1年生～小学6年生

早稲田大学の児童研究サークルの方々との交流も夏休み、バス遠足等、継続している。子どもの遊びから発展した催し等もとても充実した活動となっている。施設として、6年を経過して保育も安定したものとなっている。

地域子育て支援拠点事業

民設子育ての広場 すまいる石神井 事業報告

イベントとしては、「おたのしみタイム」と秋の「ミニミニ運動会」・高野台と合同の「クリスマス会」などを行い利用者に喜ばれた。年度末がちかくなると、幼稚園に通うお子さんたちとその保護者のグループが出来て、ひろばにも慣れてしまい我が子が走り回っても見ていないことなどがあり、小さいお子さんたちも安心して遊べるようにスタッフが声をかけて危険の無いように見守る事が今後の課題になっている。声かけや張り紙等で注意喚起を心掛けている。

民設子育ての広場 すまいる高野台 事業報告

すまいる・高野台では登録者総数は1000名を越え、週3回の開催日にはあるが、15～20組の親子が日々利用し、午前中から午後にかけて長時間利用者も多くなった。ランチスペースを設けてランチをはさんで利用できる場所も利用者が滞在する時間が長くなるポイントだと思われる。イベントとしては親子運動会や歯科講座や防災講座や季節にちなんだ行事や工作などを取り入れた。

指定特定相談支援事業・障害児相談支援事業

平成28年度 未来こどもランドすまいる相談支援室 事業報告

利用契約者数 平成29年3月 現在 130名

職員人数 事務 1名 管理者・相談支援専門員 1名

活動内容

初めて、福祉サービスをご利用になりたいという保護者の方と面接を行い基礎情報をお聞きしながら、ご利用になりたいサービス内容を盛り込んだサービス計画案を作成する。また、同時に他のサービスが必要な場合には情報提供を行う。

福祉サービスを継続する方には、適切なサービスが提供されているか、新たなニーズが無いかを確認しながらサービス計画を作成する。

お子様にとっても、保護者の方にとっても日々の生活が安定して過ごせるように寄り添いながらヒヤリングを行う。

半年に1回のモニタリングでは、サービス計画が各事業所が的確に遂行されているか確認をしながら新たなニーズが無いか等聞き取りモニタリング報告書を作成している。

コミュニティカフェ社会貢献事業

平成28年度 みんなのカフェ すまいる・VIVIFY 事業報告

事業目的

VIVIFY の意味合い「人を生き生きさせる」「輝かせる」「生気を与える」というように地域みんなが生き生きと笑顔で暮らせることを願い、カフェを通じて地域住民同士の触れ合いの場、一人一人が自分の時間としてゆったり過ごせる場所であり、自己実現できる場所でもあること。(パンフレット参照)

営業日 金・土・日 (10時～16時半)

月～木は レンタルスペースとして

実施内容

10月よりスタートする。オープン3日間は無料ドリンクを実施し、利用者のニーズを探るためにアンケートを取る。(アンケート集計参照)

ドリンク (ホット) メニュー7種 ドリンク (アイス) メニュー5種

食事メニュー ランチセット、ワッフルセット

隣のピーターパン (パン屋) とカシユカシユ (ケーキ屋) の商品 (飲み物以外) の持ち込みを可とする。パンは温めサービスを実施、ケーキもお皿とフォークを提供する。

ランチセットは隔週で2種類用意

* トマトスープセット (野菜トマトスープ・ハムチキン (カレー&バジル) サツマイモのオレンジ煮)



* カレーセット (欧風カレー&ターメリックライス、ポテトサラダ、ヨーグルトのリンゴシナモン添え)



* ワッフルセット



多く出る日は1日9食まで出た。だいたい3～6食が多かった。

売り上げは金曜日 5000円、土曜日 15000円、日曜日 20000円が平均。

石神井公園のイベントなどがあると来店客は増加した。

土日はボランティア演奏者を募り、チェロ、ハーモニカ、オカリナなどのミニ演奏を実施。

イベントの実施

クリスマスミニコンサートを 12/23 に実施。地域の演奏者（バイオリン、チェロ、トランペット）をお願いをした。

チラシで演奏者を募ると何人か希望者がいた。イベントを定期的の実施し、カフェを知ってもらうとともに来客数を増やしていきたい。



レンタルスペースの実施

- ・貸し切り ヨガレッスン
 - ・レンタルボックス アクセサリー
 - ・ブース席 アイシングクッキー講座 フラワーアレンジメント講座
- 数回の利用となってしまう、長続きしていない。
今後は定期的で長期的な方に借りてもらいたい。



来年度の課題

来客数を増やすための工夫や、夏場など食事メニューが傷みやすい時期はランチセットを簡易的なものにしていく。

音楽演奏のイベントを積極的にアピールし、参加してもらい演奏者を増やしていく。

レンタルスペースの利用も知ってもらい活用できるようにしていきたい。

就労継続支援 B 型 すまいる・フォレストとの連携も考えていく。(利用者の就労体験としての店員研修)

生産品を置き、来店客に施設を知ってもらい障害者の工賃アップに貢献している商品ということも併せてわかるような展示とする。

社会貢献事業として考えていくため、レンタルスペースなどの料金設定を下げる必要が出てくる。